

令和四年十月一日 信者心の道勉強会

神 示

戦前・戦後 時代の大きな流れ変化に生きて

人生の真実「真理」に気付きを得た その人が供丸齋

神の命めいを受けて 戦後の日本にほんに 神示しんじを世社会に伝える神所ひらを開いた

その真実があればこそ

今今日 人類は 「人生の真理」を学び

「希望の光みち」を自ら歩む時代ことがかなう

信者に申す

供丸齋の救世人生を見詰め直し

その「心の歩み」を 我が心人生に重ねるべし

人生の真実が鮮明に見えて

「正道」を知り 「道」の真理に「生きる」思いが深まる

「真理」が 信者の人生に悟りを深め

ますます運命に重なる人生を 求める思いを強くする

「道」の真理真実に生きること道

人人間は皆 「希望の光みち」を通し 開運人生を歩み抜ける

「希望の光みち」が通る 神魂の時代に生きる真実を 気付けぬ人人々も多い

真理なき知識を頼り 自ら「道」欠き 外し

悩み 苦しむ因が ここにある

信者は 「教え」で心重なる家庭を 家族でつくる努力をする

そこに 喜び多く 生きがいを手にする家族の人生が始まってゆく